

もの言う牧師のエッセー第336話

「It's Sho (翔) Time!」

「ウソだろー!!」 4月6日、エンゼルスの大谷翔平投手が本拠地アナハイムのアスレチックス戦で3試合連続弾となるホームランをバックスクリーンへ叩き込んだ時、現地中継はそう叫んだ。すでに1日のアスレチックス戦でメジャー初先発初勝利を上げていた彼が、3日には初回の打席でメジャー初本塁打となる3ランを放ち4打数3安打3打点2得点。2日間のために勝利投手が打者として出場した試合の初回到本塁打を記録したのは1921年6月のベーブ・ルース以来、97年ぶりの偉業となった。

「百年に1人の潜在能力を持った選手」（サンフランシスコ・クロニクル）、「大リーグ史上最高の才能」（MLB著名記者ジェイソン・スターク）、「大谷の偉業に比べればベーブ・ルースは大したことない」（著名ジャーナリスト、キース・オルバーマン）、「彼はこの惑星生まれじゃないんだ」（LAタイムズ）、「おかしい。彼はビースト（野獣）だ!」（大リーグ公式ツイッター）。。。もはやこの男、形容のしようがない。

とは言うものの、彼の活躍には決定的な理由がある。彼の二刀流を認め後押しした日本ハムの育成能力の高さだ。もともとメジャー志望の大谷は、日本ハムの指名に困惑し、球団との交渉にも出ないという頑なな姿勢を見せていたが、栗山監督が「二刀流の選手としてしっかり育てたうえで、心よくメジャーに送り出す」と確約し、その約束通りNPBで5シーズン、二刀流としてプレーさせ、投打ともに一流に育て上げた。また、イチローの振り子打法や、落合博満氏の中日監督就任などの時代に比べ、時代が“オレ流”に寛大になったことや、そもそも米社会では学校の先生がバーテンをしたりなど“二足のわらじ”が多く、NBAのスター選手マイケル・ジョーダンが大リーグに挑戦するなど、二刀流の風土が強いことなども、大谷選手にとって追い風になったと言えよう。聖書には

「誰が、ひとりの者を東から起こし、彼の行く先々で勝利を収めさせるのか。彼の前に国々を渡し、王たちを踏みにじらせ、その剣で彼らをちりのようにし、その弓でわらのように吹き払う。」

イザヤ書41章2節、

とある。言うまでもなく一人で野球は出来ない。一人で生きていける人もいない。何よりも、勝利を得させてくれるのは神なのだ。へりくだって神を敬い、人の話に耳を傾け、ゆっくり進んで行く。その先に私たち一人ひとりのショータイムが待っている。

2018-5-18

